

1 教育目標

人間尊重の精神を基盤とし、共に生きる豊かな心と、たくましい身体を持ち、自ら学ぶ意欲と確かな学力を身につけた人間性豊かな児童の育成

- (1) やさしく
- (2) たくましく
- (3) かしこく

2 学校経営方針

- (1) 学校力を高める
 - ① 子どもの実態を踏まえた確かな力(学力、体力、生活力、心)を育てる
 - ② 一人一人の教師が、教育専門職としての使命感と移動意欲に燃え、資質の向上及び指導力の向上に努める
 - ③ 校地、校舎、施設等を整備し、清潔感あふれる教育環境づくりに努める
- (2) 地域力の活用
 - ① 学校と家庭・地域の連携を深め教育力を充実する
- (3) 組織力を生かす
 - ① 職員がお互いに信頼し合い、チーム力を生かし業務の縮減に努める
 - ② 働きやすく、明るい職場づくりに努め、職員個々のストレス(目標0)を軽減し不祥事根絶を目指す

3 重点目標

「徹底継続」～ 一点突破、全面展開 ～

- 1 特別支援教育の充実支援を要する子に対する相談・支援・指導を行う。
- 2 学力の向上 (1)黙想の徹底(2)四習の確立(3)家庭学習の定着(4)バリアリティムの確実な実施と充実
- 3 保護者への対応 予見, 予防, 早期発見, 早期対応に努める。
- 4 C4thの活用
- 5 働き方改革

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート集計				分析及び改善策
			肯定的割合(%)				
			生徒	保護者	教職員	地域	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している(児童:学校は楽しいですか)	86	94	92	93	概ね高い数値が挙がっているが、「学校は楽しいですか」という児童の割合が低かった。学力定着のための授業を核にして指導を重ね、児童の所属感、自己肯定感につなげていく。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である(児童:学校は明るいですか)	93	97	100	94	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100		
	業務改善	公務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			94	86	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	89	92	69		児童の自己評価は高いが、生活指導に関わって、「ルールやマナー」「挨拶」の項目で、まだ十分ではない実態が伺える。特に、「挨拶」については、今年度、代表委員会で児童が「ワンストップ挨拶」の取組を決定し自主的をもたせて取り組んできたが、保護者の記述には「校内での挨拶が少ない」という意見が散見された。良い例を例示するなど、ゴールの姿をイメージさせていく必要がある。
		挨拶をよくしている	88	76	62	76	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	98	81	100		
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	88	88	92		
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	96	90	100		
	人権・平和教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている 平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	95	97	92	93	
	道徳教育	学校は、道徳の時間に力を入れ、教育活動全体を通じて道徳教育の推進に努めている	85	95	92	92	
特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	90	93	100			
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	89	97	92	89	「家庭学習」については、児童の自己評価が低く、取組姿勢への二極化が伺える。学習方法を例示して啓発に努めていく。また、「キャリア教育」については、三者ともに数値が低くなった。キャリアパスポートの取組を充実させていく必要がある。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	93	93	100		
		家庭学習の習慣が身に付いている	73	84	92		
	キャリア教育	将来の進路や職業について適切に指導している	68	80	77		
	読書指導	子どもたちの読書活動の充実に努めている	74	88	100		
		児童:家庭読書に取り組んでいる。	73				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	86	98	100	基本的な生活習慣について、「早寝早起き朝ごはん」について問うた児童の自己評価が低くなった。特に、早起きが苦手な児童が多く散見される実態から、家庭への啓発を行って対応する。「好き嫌いをなく食べる」ことについては、給食指導で対応していく。
	体力向上	基本的な生活習慣が身に付いている	79	85	69	
		体力向上に努めている	89	89	69	
	食育	食に関する教育活動を行っている(児童:好き嫌いをなくたべている)	72	96	100	
信頼される学校		児童:清掃活動に取り組んでいる。	83			
	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている		98	100	95
	情報提供	学校の状況は、通信やHP等で知ることができる		88	92	95
	PTA・地区との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている		97	92	95
	職員の資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100	
	体罰防止	体罰防止について必要な研修を行い、容認しない風土がある			100	
教育環境		学校であったことを家族に話している	76			
	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	93	93	92	76
		学校は花と緑に囲まれた環境づくりに努めていますか。				85
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100	86
						どの項目も高い数値が挙がっていた。ただし、保護者・地域より、特に運動場遊具や体育館等の各施設の改善要求がいくつか挙がっているため、児童の安全を視念にして、その優先度を吟味しながら、順次対応していく。

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

- (1) 成果
- 「わかりやすい授業」が展開されていることについてよい評価をいただいた。今後も組織的に授業改善に努めていく。
 - 「学校の雰囲気が良い」という評価を得ることができた。
 - 「いじめ防止対策」についても良い評価であった。今後も、校内マニュアルに則った組織対応を徹底していく。
- (2) 課題と改善策
- 児童の自己評価が低くなっている項目への対応
 - 「家庭学習」については、家庭とも連携しながら指導していく。
 - 「キャリア教育」については、キャリアパスポートを活用し系統的に指導していく。
 - 「読書習慣」については、学校としては図書環境の充実に努めつつ、家庭へも協力を呼び掛けていく。
 - 児童の自己評価と保護者・教職員の評価のずれがある項目への対応
 - 「挨拶」については、校内でゴールの姿を示して意識を高めながら指導していく。
 - 「ルールやマナー」については、
 - 「体力向上」については、新型コロナウイルス感染症流行の動向次第だが、体育的行事等を活用して取り組む。

6 学校関係者評価

- (1) コロナ禍の影響
 コロナ禍で多くの行事等が中止や延期になっている中で、学校は対応に追われたのではないかと。次年度は、少しでも元に戻せるとよい。
- (2) 児童の挨拶
 児童の挨拶の様子について、個人差が大きいと感じる。地域でも「ワンストップ挨拶」をする児童も多くいるが、全く目を合わせない児童も同様に多い。特に、低学年児童は挨拶が定着していないように感じる。その改善のために、低学年からの挨拶への意識の啓発と指導が必要であり、同時に、地域と児童の接点を増やす取組をつくっていくことを期待している。
- (3) 職員の児童への関わり
 集団下校での様子から、職員と児童との信頼関係の強さを感じる。職員がしっかりと向き合って指導をしている。
- (4) 通学路
 通学路について、目覚町交差点の横断歩道を朝のラッシュ時に通すことは危険だと感じる。別の道を通るように、児童に指導することはできないだろうか。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- (1) コロナ禍の影響
 行事については、令和元年度の学校歴をもとに、令和3年度の計画を作成していく。
- (2) 児童の挨拶
 育友会とも連携しながら、低学年期から挨拶の指導を行って、徹底につなげていく。
- (3) 職員の児童への関わり
 授業を核にして指導を行いながら、児童との信頼関係づくりにつなげていく。
- (4) 通学路
 目覚町交差点を通る児童数等を具体的に調査し、主要ルートの変更や指導内容等を検討していく。